

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 岡山天体物理観測所建設前夜といえる写真 (百周年記念誌資料 1-28-2)**

東京天文台 100 周年記念誌資料の整理を引き続き行っている。これらの資料は 3 つの段ボール箱に入っていた。今回の資料は一番目の段ボール箱に入った No. 28 と記されたアルバムの中から、岡山天体物理観測所の建設が始まったころの遥照山系竹林寺山に至る景色、観測所敷地境界線の杭打ち、ドーム中心の杭打ちなどが初代所長大沢先生を中心に行われた様子である。アーカイブ室新聞第 346 号 (2010 年 6 月 9 日) のリストに下記のように記されたアルバムの中ほどの一部である。

28) 岡山天体物理観測所建設前、建設中のアルバム、主として鴨方町、金光町の写真
天文台予定地への道路の建設前であろう、地元、鴨方町の町長自ら槌を振るう姿が写っている。



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5

写真 1 の脚注には「地頭上宇佐古附近より竹林寺山連峰を望む」とあり、鴨方町の佐古という集落から天文台建設予定地の竹林寺山を見たもので、少しこんもりとしたところは竹林寺山山頂の「金比羅さん」の森であろう。写真 2 には「県道の一部」とあり、崖地の県道を少し登ったところから見下ろして撮影した光景で深い谷になっている様子が分かる。

写真 4～5 は、鴨方町の最後の集落から矢掛町に向かう山道の県道を撮影した光景だが、道幅は狭く、未舗装の道路が続いている。

写真 6 は、県道から天文台予定地への分岐であり、「予定地案内仮設道」との脚注があ

る。写真7には「ドーム予定地へ到着」とあり、いよいよドーム建設場所に到着した車が写っている。



写真6 県道より分岐



写真7



写真8 ドーム予定地付近



写真9 ドーム予定地付近



写真10

写真8、9はドーム予定地付近と脚注にある。写真10には「ドーム中心杭入」とあり、ドーム中心予定地に杭を打つために集まった面々で右から2人目が大沢先生である。



写真12



写真13

写真12、13は、ドーム中心位置へ杭を打つ木槌を持った人物が1955年六条院町と鴨方町が合併した新鴨方町初代町長の加藤市三郎氏である。中央に立っている左の人物が大沢先生である。

写真14の脚注には「東大営繕課長の手により境界杭 No.1 を打つ」とある。今の人には遠い昔かもしれないが、岡山天体物理観測所は、東京大学東京天文台岡山天体物理観測所という長い名前の東京大学の施設だったのである。写真15の脚注には「次に鴨方町長」とある。杭を支えているのは大沢先生である。この杭、No.1は74吋望遠鏡ドームから竹林寺

山頂の「金比羅さん」に向かう山道の右手にあったと記憶している。竹林寺山などには写真に写っているような大きな岩（たぶん玄武岩質安山岩）が点在している。



写真 14 境界線への杭打ち



写真 15 境界線への杭打ち



写真 16



写真 17

写真 16 の脚注には、「境界 No. 1 より矢掛町分の境界線決定の協議」と書かれており、場所は見晴らしの利く「金比羅さん」脇の巨石の上で協議する人々である。多くの人がいるのは鴨方町、矢掛町の担当者が相当数いるからであろう。写真 17 の脚注には「金比羅神社拝殿（竹林寺山頂）」と書かれている。



写真 18



写真 19

写真 18 の脚注には「境界 No. 1 ヨリ矢掛町境の山々を望む」とあり、写真 19 には「山田を望む」とある。この山田は、当時は矢掛町奥山田と呼ばれていたが、奥山田では「いかにも辺鄙なところのイメージが強い」ということで南山田と地名を変更したと聞いている。

写真 19 の中央の遙かかなたに山の上部に開けた場所が見える。ここは戦後、外地から引き上げた人たちが開墾した集落だと親父から聞いた。



写真 20



写真 21



写真 22

写真 20 の脚注には「竹林寺山より遥照山を望む」、写真 21 の脚注には「竹林寺山より鴨方町地内の山々を望む」、写真 22 の脚注には「ドーム附近より南の山々を望む」とある。



写真 23



写真 24



写真 25

写真 23 に脚注には「ドーム附近より西方を」、写真 24 の脚注には「ドーム附近より小坂東を」、写真 25 の脚注には「竹林寺さんより遥照山を望む」とある。これらの山々は岡山県南部の典型的な山の様子である。



写真 26



写真 27

写真 26 の脚注には「竹林寺山小松の一部」とあるが、竹林寺山に植林された松の苗木の育った様子を撮ったものであろうか。写真 27 の脚注には「地藏峠 遥照山登山道分岐点」と書かれている。

これらの写真は、岡山天体物理観測所建設の夜明け前といった感じの写真であろう。大沢先生の若いころの雄姿である。大沢先生はこのころ 30 代後半であった。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp